

全国協議会 ニュース

2010年7月1日発行
第217号

発行所
特定非営利活動法人
全国骨髄バンク
推進連絡協議会
〒160-0005 東京都
新宿区愛住町23-1
Woody21-9階
TEL.(03)3356-8217
FAX.(03)3356-8637
発行責任者:中野勝博
http://www.marrow.or.jp/
E-mail:office@marrow.or.jp

郵便振替口座
00150-4-15754
銀行口座
三井住友銀行 新宿通支店
普通 5666655

新しい時代へいま有明から 初夏の青空のもと 設立20周年記念大会を開催

6月5日、6日の2日間、東京都江東区の東京有明医療大学において、全国骨髄バンク推進連絡協議会設立20周年記念大会を開催しました。大会は、みんなの願いを書いたカードを風船につけて大空に飛ばす「メッセージバルーン」でスタートしました。

ホールでは、第一部の記念イベントとして、最初に小児がんの子供たちの10年の日々を追ったドキュメンタリー映画「風のかたち」が上映されました。会場には一般参加の親子連れも多く見られ、静かな感動が広がりました。



続いてシンポジウム「患者さんを支える人たち」が行われ、小児患者を支援するボランティア団体の大野寿子さん、ソーシャルワーカーの樋口明子さん、

小児科医の小澤美和さん、骨髄バンクを支援くださっている企業の代表として三森裕さん、ライオンズクラブを代表して会場もご提供頂いた櫻井康司さん、記念講演をいただいた荒井daze善正さん、大谷貴子会

特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会
設立20周年記念大会宣言
1990年6月、全国各地で骨髄バンクの設立を求める運動を行っていた13団体が集結して、全国骨髄バンク推進連絡協議会が設立されました。患者さんに元気になってほしいという思いで骨髄バンクの早期実現を目指していた活動が実を結び、1991年12月に公的骨髄バンクである日本骨髄バンクが発足、1993年1月には日本骨髄バンクを通じた初の移植が行われました。社会の理解が広がり、ドナー登録者が増えるに伴い、患者さんの移植の機会も増え、今では年間の移植件数が1,000例を超えています。2008年12月には骨髄バンクを介した移植件数が10,000例を突破しました。私たちは患者さんやドナーさんを支援するボランティアとして、多くの方々の理解と応援をいただきながら、今日まで20年間、骨髄バンクの実現と充実、骨髄移植を取り巻く環境の整備をはじめとする、支援活動に取り組んできました。しかしながら、骨髄バンクに生きる望みを託す患者さんが全て移植を受けられるわけではありません。実に多くの患者さんが今なお移植の機会さえ得られないという悲しい現実があります。設立20周年という節目を迎えるにあたり、「いのちの種」を分けて下さったドナーさんをはじめ、患者さんの支援のために活動を支援して下さいました。感謝し、骨髄バンクの原点である、「一人でも多くの患者さんの命を救いたい」という思いをあらためて心に刻みます。

「新しい時代へ いま有明から」 ～～思いをつなぐ いのちをつなぐ～～
いま、この瞬間も病と闘っているすべての患者さんが笑顔を取り戻す日を願って、この「有明」の地で、わたしたちは明日への希望と決意を込めて宣言します。

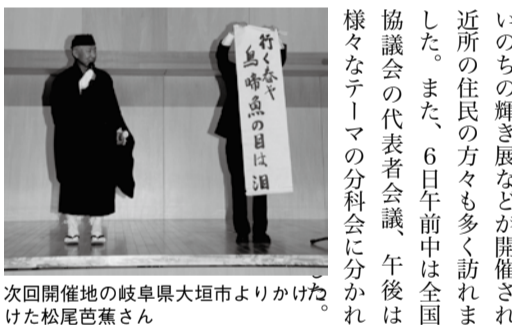
[2010 有明宣言]

1. 私たちは、すべての患者さんが適切な時期に適切な治療を選択して、元気に社会復帰を果たせるように、患者支援活動、広報活動、要望活動に努めます。
2. 私たちは、骨髄移植やさい帯血移植がより効率的・効果的に実施されるべく、両バンクを一元化した「造血細胞バンク」が日本赤十字社の事業として再構築されるよう働きかけ、その実現に努めます。
3. 私たちは、ドナーの安全に常に関心を持ち、ドナーがより安心して提供できる社会環境の実現に努めます。
4. 私たちは、全国の仲間や関係機関との連携を強化しながら、自らの自発的な「思い」を大切に「いのち」をつなぐ自立したボランティア活動を続けていきます。

2010年6月5日 設立20周年記念大会参加者一同

それぞれの立場の患者さんを支える活動と、活動にかける思い、これから目指すべき方向などについて、熱く語り合いました。

第二部では記念式典が行われ、会長挨拶・来賓挨拶の後、これまでの20年間の活動を映像で振り返り、その後、様々なご支援をいただいた企業や団体、個人の方々に、感謝状を贈呈しました。そして、設立20周年を迎えた今、これから私たちが目指すことを「有明宣言」として若手理事2名が読み上げ、会場の皆さんと共に確認しました。



次回開催地の岐阜県大垣市よりかけた松尾芭蕉さん



これまでの苦勞をねぎらい合い、楽しく交流して明日からの活動の英気を養いました。

なお、ホールの外では、両日とも物産展やスタンプラリー、いのちの輝き展などが開催され、近所の住民の方々も多く訪れました。また、6日午前中は全国協議会の代表者会議、午後は様々なテーマの分科会に分かれ

青空へ思いをのせてメッセージバルーン

オープニングセレモニー「メッセージバルーン」で飛ばした風船には、メッセージカードを付けており、これからのバンクへの思い、ドナーさんへの感謝の思い、病気と闘う患者さんへの思いなど、いろいろな思いが記されていました。



この日は200個の風船が用意され、イベント参加者全員が輪になるように並び、思いを乗せた風船を一齐に大空へ！

色様々な風船が青空に映え、とても清々しい光景でした。炎天下でのイベントになりましたが、笑顔で参加してくださった皆様ひとりひとりの心に残るセレモニーになったのではないのでしょうか。

なお、このイベントは周年事業として全国各地で開催したいと考えています。

私たちのイベントでもこのセレモニーをしたい！とお考えの加盟団体、支援団体の皆様、協議会事務局までご連絡ください。(後藤)

ARIAKEマルシェ顛末記

「全国各地の物産展をやれば、お客さん大勢きてくれるんじゃない？」そんな一部関係者の妄想から始まったARIAKEマルシェのプロジェクトは、出展者の募集から挫折の連続でした。来場者数の見込みもたえず、一切の目処が立たないようなイベントに、参加していただけた奇跡的な方を大募集した結果、何



「おかあさん持つかなあ。お客さん来てくれるかなあ。ドキドキ、ドキドキ……」と寝付かれずにいたら、朝から寝坊！前途多難な幕開けとなりました。バタバタと販売準備を進め、お昼が近づくにつれ、お客さんも徐々に増え、行列も。会場に漂う美味しそうな香りに誘われ、行列は続き……「いいんじゃない？」

ゆるキャラ君たちも応援に駆けつけ、ナマハゲさんまで来てくれちゃって。子ども達も楽しそうに歩き回って、なんだかとてもいい感じ……などと自画自賛しながら終了した2日間でした。皆さん、お疲れ様でした。(小川)

新作グッズ 「ハローキティバンダナ」完成!

長年温めてきた企画がようやく実現しました。骨髄バンクオリジナルデザインの花ハローキティバンダナです。20周年ロゴ入りで、鮮やかなオレンジとグリーンで2色です。患者支援活動の一環として、入院する患者さん方への寄贈や、各地団体の活動時のスタッフ目印として、もちろん啓発活動や募金活動にもご利用いただけますし、毎日のお弁当包みにも良さ



【お申込みは】
地元の骨髄バンク支援団体・または「特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会」へ
〒160-0005 新宿区愛住町23-1 Woody21 9F
TEL: 03-3356-8217・FAX: 03-3356-8637

答えは、そう……ゆるキャラたちの名前です。首都圏各県や東北などからやって来たゆるキャラたちは、会場の子供たちに大人気。わざわざ彼らに会いに来たご家族もいらつしやいました。また、秋田からはスギツチと一緒に「ナマハゲも遠来。『悪い子はいねがぁー!』と四方を沸かせていました。でも私の知る限り、あの場に悪い子は一人もいませんでしたね! (野平)



おそらく夜は
子ども達の夢に登場!?
愛すべきゆるキャラ達

全国リレー医療相談会 トップをきって有明からスタート

20周年記念事業の一環として、全国での医療講演会を計画しており、記念大会の2日目に第1回目を開催しました。

講演は3会場にて分科会形式で行われ、最近の医学会でトピックとなっている演題、白血病フリーダイアルの内容などを参考にして、9名の先生方に講師をお願いしました。

分科会Ⅰ「白血病と言われたら」発病間もない患者さんへ「白血病、特に近年注目されている高齢者白血病、および最新治療法を正しく理解して、希望を持って病気に立ち向かえる様な内容の講演でした。

分科会Ⅱ「移植関連合併症」移植を検討されている方へ「では、移植成績に大きく影響する移植関連合併症の克服について、そして移植後QOLの向上についての最新医療の紹介があり、また造血細胞移植の前処置による不妊対策としての卵子保存法が、紹介されました。

分科会Ⅲ「患者さんのサポート」では、チーム医療を実践している先進的事例紹介として、様々な職種5人の演者による講演と、それに続く「チーム医療を考える」と題してパネルディスカッション形式で様々な情報交換と議論がされました。

普段聞く機会が少ない移植前後の口腔ケア、管理について歯科衛生士が移植チームと一体となつている事例、積極的にリハビリを取り入れる事例、そして自施設の経験を見学に来る多くの移植施設にフィードバックする活動を積極的にこなす事例、国内でも未だに十分な移植コーディネーターの細かな配慮など、多くの事例を紹介いただき、造血細胞移植こそ、チーム医療を推進するモデルケースになりうることを実感できた、素晴らしい発表内容でした。

各会場とも30～50人の患者さんおよび関係者が聴講され、質問など活発に行われ、今後の全国展開に、多に期待できると感じました。（溝口）



1針1針に思いをこめて タオル帽子講習会

設立20周年記念大会のプログラムの一つとして、千葉の会ではタオル帽子製作の講習会を行いました。

抗がん剤の投与・放射線治療で、どうしても避けては通れない脱毛。次に新しい髪の毛が生えてくるまでに役立てて頂きたいという思いで行いました。

フェイスタオル一本で作るのですが、吸汗性はあるし、洗濯



思いが伝わり、感動しました。多くの方が講習会に参加され、製作に励んでおられました。これだけ必要とされているのだからと少し悲しい反面、避けては通れないのであれば、もっと多くの方々に広め、活用していただきたいという思いを新たにしました。（千葉の会 西島）

縁の下の力持ち ボランティアの皆さん ありがとう!!

両日とも、社会貢献の意識が高い大学生や専門学校生の皆さんがボランティアとして活動してくれました。彼等から感想やご意見をいただきましたので紹介します。



◆今回ボランティアとして参加し、パルシステムの「こんせんくん」という牛の着ぐるみを担当。涼しい顔をした着ぐるみですが中では汗びっしょり。夜にはレセプションにも招待していただき非常に貴重な時間を過ごすことができました。多くの方とお話させていただいて医療系の学生としてもとても勉強になりました。このような機会を与えて下さった皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。

◆薬学部生として勉強の足りなさを痛感致しましたし、なにより協議会の皆様方の骨髄バンクにかける思いや意気込みを目の当たりに出来たことが大変よい経験になったと感じております。特に、講演会について、「もつと医療者にも知ってほしい」「同じ病気の患者さんに、このような機会があることをもつと知ります。」

◆学生とか、もう少し若い世代にももつと手伝わせたらいのに。

◆来場者の視点が欠けている。同窓会なら良いが、啓発活動なら、各地の会のメンバーはゲストではなくホストのはず。

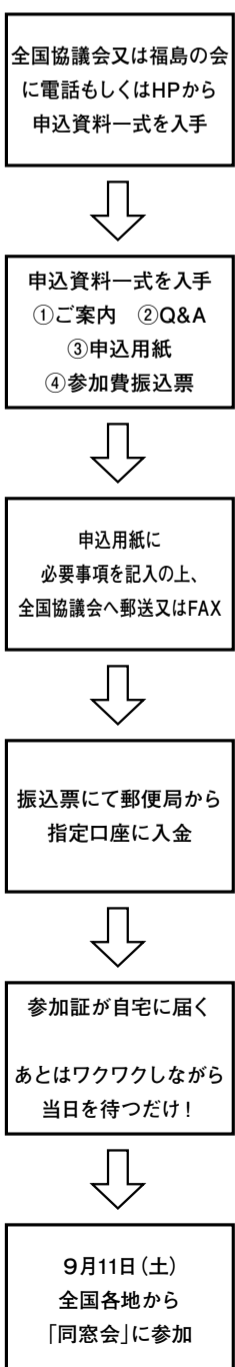
心からのご寄付に 感謝申し上げます

5月21日～6月20日

㈱タクトコーポレーション	現金	10,000円
エグゼキューブ㈱	現金	3,150円
荒初 英一郎	現金	15,000円
塩谷 泰人	現金	1,000円
みい青年会議所	現金	50,731円
可児東ライオンズクラブ	現金	2,453円
TDK㈱成田工場	現金	200,000円
黒田多喜男	現金	10,000円
須藤 勝巳	現金	5,093円
山田 康博	現金	9,880円
あきた美彩館	現金	5,000円
生活協同組合パルシステム東京	現金	52,400円
櫻井 康司	現金	10,000円
菊水酒造㈱	現金	10,000円
豊島区明るい社会づくりの会	現金	10,000円
NPO法人東三河骨髄バンクを支える会	現金	80,000円
小西	現金	2,000円
鈴木	現金	4,000円
エグゼキューブ㈱	現金	3,150円
㈱THINKフィットネス	現金	230,133円
トビタ ユキヤス	現金	5,000円
櫻井 康司	現金	30,000円
高橋 めぐみ	現金	10,000円
匿名	現金	5,000円
●白血病患者支援基金		
プルデンシャル生命保険㈱	現金	1,651,000円
高田商事㈱	現金	2,540円
(医)徳友会市村歯科クリニック	現金	6,282円
ホームセンターコーナン 市川原木店	現金	13,011円
足立眼科医院	現金	12,116円
●佐藤さち子患者支援基金		
東京マリンロータークラブ	現金	496,015円
匿名	現金	5,000円

活動資金の援助をお願いします
銀行口座
三井住友銀行 新宿通支店
普通 5666655
郵便振替口座
00150-4-15754
特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会

【申込みから参加まで】



215号（5月1日発行）でもお知らせいたしました「骨髄バンク20周年目の同窓会」の開催まであと2か月となりました。

5月下旬から参加申込み受付を始め、主管団体でもある、福島県骨髄バンク推進連絡協議会でも皆様をお迎えする準備、受け入れ体制が万全になっています。

受付から当日までの流れは表のとおりです。

この「同窓会」では、様々な「ありがとう」を全国各地から持ち寄っていただき、たくさんの方の「希望」へと続いていきたいと思います。

20周年事業協賛金 (5/21～6/20)	
福豊産産㈱	20,000円
清水英司	3,000円
徳島藍ライオンズクラブ	20,000円
東京マリンロータークラブ	20,000円
	(敬称略)

患者さん、ドナーさん、ボランティアの皆さん 一人でも多くの参加を心よりお待ちしております。

お申し込み・問い合わせは 全国協議会事務局まで

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

（財団マンスリーJMPP（6月15日発行）より抜粋）

●「骨髄バンク推進全国大会2010」実行委員会発足
新潟県で開催される「骨髄バンク推進全国大会2010」に向けて地元関係者等による実行委員会が発足し、1回目の会合が5月22日に行われ、企画内容や運営方法等について検討が始まりました。

●大会概要
○日時：2010（平成22）年9月12日（日）、13時～15時30分
○会場：新潟市民プラザ（ホール）
新潟市中央区西堀通6番町866番地 NEXT21ビル6階
※同日午前中に「地区普及広報委員研修会」が開催されます。詳細は別途お知らせします。

●4月・5月のドナー登録者数
ゴールデンウィークをはさんだ4月と5月の新規ドナー登録者数は5,957名で、昨年の同時期（4,883名）より1,000名以上多い数字となりました。これを窓口別に見ると、献血ルームや保健所等の固定窓口が減少（2,140名→1,654名）した反面、登録会（献血併行型・集団）が大きく増加（2,622名→4,223名）しています。この時期、全国で昨年を上回る回数の登録会が開催されました。

●読売巨人軍 骨髄バンクシリーズ
7月2日（金）～4日（日）の3日間、プロ野球読売巨人軍の「骨髄バンク支援シリーズ」（対阪神）が東京ドームで開催されます。入場者の方にリーフレット・シールの配布を行う他、屋外ステージでは骨髄バンクPRイベントが行われ、骨髄バンクチャリティグッズ

の販売も開始されます。また、3日と4日には22番ゲート前の特設テントでドナー登録会が行われる予定です。

●「ドナーの方が骨髄提供後に血液疾患等を発症した場合」についてのお願い
骨髄提供にご協力いただいたドナーの方が、骨髄提供後に血液疾患などを発症した場合には患者さんの健康等に影響することがあるため、財団までご連絡をいただきたい、との案内文をフォローアップ帳票に盛り込むことについて医療委員会、ドナー安全委員会において検討され、倫理委員会において決定されました。

●日本骨髄バンクの現状（平成22年5月末現在）

	4月	5月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,898	3,059	361,396	465,170
患者登録者数	238	195	2,658	30,307
骨髄移植例数	91	85	—	11,763
20歳未満ドナー登録者	—	350	12,527 ¹⁾	—
51歳以上ドナー	224 ²⁾	94 ³⁾	18,747 ⁴⁾	—

●5月の区分別ドナー登録者数：献血ルーム／783人、献血併行型集団登録会／2,180人、集団登録会／24人、その他／72人

注) 数値は速報値のため次月以降に訂正されることがあります。
*1) 17年3月～ *2) 51歳以上ドナーの延長数 *3) 51歳以上ドナーの新規登録数 *4) 17年9月～